

# NPO法人各事業 2021年度の取り組み

NPO法人わの会事務局長 志鎌哲



**わ**の会は府中地域に暮らす人々の願いを実現可能な望みに変えて、福祉活動において実践してきました。一つの望みが叶えば、新たな願いにも光が指します。願う人、応える人、支える人、寄り添う人、拡げる人などたくさんの繋がりが生まれてきます。繋がりはより大きな願いを形にする力になることを感じます。

**自立支援ネットワーク**は、コロナ禍の中運営委員会および事務局員の奮闘もありたくさんの会員の願いが寄せられる様になりました。

**デイサービスりんりん**は、利用者が少しずつ増えています。利用者や家族の願いにりんりんが応えているからではないでしょうか。

**ヘルパーステーションあいあい**は、重度障害の利用者が多く全体訪問時間の67%に当たります。重度障害の方が地域で暮らしたい願いを実現してきたあいあい「望みを託したい」との声も多くあります。また、あいあいのヘルパーの定着率が高いのは、この仕事のやりがいを感じている人が増えていると受け取れます。

**法人の研修事業**においては、重度訪問介護のヘルパー養成と同時に、同行援護(視覚障害者のガイドヘルパー)養成研修も数年ぶりに開催することができました。この研

修によって48人のヘルパー有資格者が誕生しました。

**相談支援事業**は、月35件を超える計画作成やモニタリングをこなせるようになりました。

法人全体を対象とした研修や事業の振り返り(半期総括)も安定的に開催できるようになり組織全体の力が上がってきています。

**今** わの会には住まいについての願いが多く寄せられています。障害があつて、歳を重ねて、独りで暮らすことが難しくなっている。それでも地域で暮らしたい、自分らしく暮らしたい、その願いを望みに変えようとする新しい繋がりが生まれ、住まいとケアを提供する新事業プロジェクトが動き出しています。

**願** 願いを望みに変える時にたくさんの繋がりが生まれ、わの会の力になっています。昨今、「公」が後退し、暮らしの困難を「自己責任」で何とかせよとの風潮が強まっています。この2月から介護職の給与を3%上げる政策が打ち出され、10月には臨時の介護報酬改定がありますが、その見返りとしてさらなる効率化が求められています。人の暮らし、更にその困難を支える仕事において「効率化」という考えは相容れないと思いますが、この逆風の中で、わの会は繋がりを力として今年も進んでいきます。

# わの会通信

Vol. 43

2022年1月30日発行 発行元：NPO法人わの会 住所：府中市住吉町1-60-10 TEL/FAX：042-360-3626



みなさんお元気ですか？コロナ禍における私達は、まだまだ安心した生活を取り戻すことのできない状況に置かれています。このような中であってもわの会の各部門の業務は可能な限りそれぞれの業務役割を果たすべく努力を重ねています。日頃お力添えを頂いております。各方面の皆様にはこの場をお借りし深く御礼を申し上げます。

今年わの会は府中地域福祉を考える会として誕生してから、26年目になります。この間わの会はどんなに重い障害を抱えていてもよりよく生きること、より豊かに生きることを目指して歩みを進めて参りました。今、高齢期を生きる人々の中で自身の人生最後をどのように生きるかそして死を迎えるか考える方々の声が多く寄せられています。わの会もその声に応えるために住まいの建設、運営に努めていきたいと思っています。今後とも皆様のお力添えをいただけますように。 **NPO法人わの会理事長 佐々木公一**

特定非営利活動法人 **わの会**  
府中市住吉町1-60-10  
TEL：042-360-3626



【5つの事業】 わの会HPはこちら→

①府中自立支援ネットワークわの会（自立支援）  
042-360-36326

- ②デイサービスりんりん（地域密着型通所介護）  
042-361-6001
- ③重度訪問介護従業者養成研修講座（研修事業）  
042-336-7445
- ④ヘルパーステーションあいあい（訪問介護）  
042-336-4-7445
- ⑤わの会相談支援事業（相談事業）  
042-319-2688



# 府中自立支援ネットワークの取り組み

## ◆活動の継続目指して◆

コロナの感染予防を行いながら「コロナ禍での会員の引きこもりをどうしたらいいのか、久しぶりにコーラス教室に参加された会員さんが本当に嬉しそうだった。活動を続けていきたいと思えます」「少人数対象で実施回数を増やしていき、リモート参加を取り入れて行っていく」ことなど話し合い活動を続けています。

## ◆会員の自立支援に向けて◆

項目	内容
生きがい活動	大正琴教室・コーラス教室 絵手紙教室
教育活動・相談活動	語る会(介護を語る、子育て語る)
地域生活支援	買い物同行・家事援助 ワクチン接種送迎
事務所開放・電話相談	
外出訓練 生活機能訓練	畑の作業・小散歩・弁当DAY 集いの場・リモート歌う会 パラリンピック採火



## ◆活動の取り組みが継続できた要因◆

- ①大正琴教室・コーラス教室・絵手紙教室の講師の方々の熱意によるところが大きいと思います。絵手紙を描くこと、大正琴を弾くこと、歌うことを通して会員の皆さんのやりがい、楽しみが繋がりが広がっています。
- ②「協力会員」のボランティアの力も大きい。
- ③ネットワークわの会の会報「みんなでいこう」を発行している(月1回)。「皆さんの活動の様子を拝見して元気が出ます」、「あのカルガモ親子のニュース良かったね」「ヘッドネーションに興味が湧きました」などの感想が多く寄せられています。

## ◆今後の取り組み◆

- ①制度の隙間を埋める取り組み  
公的制度(介護保険など)で認められていないが、買い物、掃除、食事作り等の支援を行う。Aさんより、「交通事故で家事が出来ない。何とかならないか?」、「コロナワクチン接種の為の移動を手伝って貰えないか?」会員の皆さんからの依頼をネットワークわの会が取り組めるか検討しつつ取り組んでいきたいと思えます。(例スマホが上手く使えない、PCの使い方を覚えたい等々)
- ②財政については、各種行事の参加者を増やし物品販売等に力を入れ収入増をはかる。会費の納入のお願いをする。

を作って参加をお願いしました。すると近くの方が呼びかけに応じてくれました。いくつかのグループが継続的に私の部屋に集まって会を行いました。現在はコロナ禍で集まれなくなったのでZoomで会を行っています。Zoomの良い所はそれぞれの自宅から参加できることです。その長所を活かして毎月会を行っています。



奥様と共に、Zoomで歌の会の様子

## Q3◇参加される方はどのような方ですか?

教え子、孫たち、地域の知人、妻の友人、同僚・友人やケアをしていていた学生ヘルパー、以前からの歌う会の友人、人が人を呼び、わの会の方々、Facebookから友達になったALSの方など参加者が増えています。

## Q4◆どうやって毎月曲を選んでいきますか?

録音してある多くの歌声の曲から毎月合ったものを自分で選んでいます。  
季節：さくら、村祭り、虫の声。  
平和：長崎の鐘、ヒロシマのある国で。  
人生：自分で作った詩とBeethovenの第九とコラボした歌。

自分で唄えないからボカロ(人の声を元に歌声を合成するソフト)で作ってYouTubeにアップしています。(本当は自分で唄えたらいいのになあ~とは思いますが)インターネットを通じて表現できて皆に聞いてもらえるから嬉しい!

## Q5◆歌の会を通して印象的な体験はなんですか?

マイボイスを使って私の思いを聞いてもらえること。私の思い出の歌声と皆さんと一緒に歌えること。皆さんの発言を聞けること。交流できること。会でみんなに会えること!

## Q6◇福祉関係者や、ヘルパーさんへ一言お願いします。

感謝の思いを詩にしました。



## ヘルパーさんありがとう

私が望むことを 理解する  
強くなく 弱くなく 丁度良く  
吸引 胃ろう 手足を動かす  
あなたの支援を 受けて生きる

私の表情見て 理解する  
心のコミュニケーションを 大切に  
文字盤 メラ語 目で答える質問  
あなたとの会話で 心が和む

私を支援する 広い愛  
在宅生活で 詩を書き 歌う  
社会 友達と 交流して生きる  
私は望む 普通の暮らし

## ♥インタビューした天野さん担当者 森田サービス提供責任者より

現在、7名のヘルパーで天野様の支援をしています。ご本人の望まれる「ふつうの生活」を叶えるために日々の状況などを細やかにヘルパー間で共有し、毎回安定したケア提供を継続出来るようあいあいではチームを組んでケアを行っています(^)♪

YouTube天野茂チャンネル : <http://m.youtube.com/channel/UCGthxEEtm8iKOATAU6-IrAg>  
「歌の会」に参加ご希望者は、ヘルパーステーションあいあい stationaiai@yahoo.co.jpまで

生き生き 人 しげる一む で、ALS と共に生きる



ヘルパーが体位調整中(しげる一むにて)

多摩市在住の天野茂さん(71歳)は、中学校で特別支援学級の教師をされていました。7年前ALSと診断され、現在在宅療養中、平成29年(2017年)12月よりヘルパーステーションあいのサービスを利用されています。

3年程前より趣味のコーラスを活かし「歌の会」を毎月開催。ZOOMを利用し、歌を通じて交流をはかっておられます。コミュニケーションは透明文字盤ではなく、だ液を排出するためのメラチューブに反響させた「メラ語」で会話され、自室を「しげる一む」と名付け、自分らしく充実した毎日を過ごされています。

まりました。車いすに毎日乗り規則正しい生活をしている。文字盤、メラ語、パソコンなどを使ってコミュニケーションが取れる。ブログ、詩を書いて表現できる。インターネット、歌の世界で交流できる…今は「生きててよかった」と感じています。

天野茂ALSでALS在宅生活を発信

<http://nttamano.air-nifty.com>

Q2 ◆歌の会の活動を始めるきっかけと活動内容を教えてください。

呼吸器を着けて声が出せなくなって好きな歌をどうしようかと思ったんだけど録音した歌声があるので、「じゃあこれを使って皆と歌を唄おう!」と思いました。始めに「歌の世界へ」(呼びかけ)

Q1 ◆ALSと診断された時の気持ちと、今の気持ちにどのような変化がありましたか?

ALSがどのような病気なのあまり知らなかったもので、情報を集める中で考えました。その中でどのように生きて行くか考え、呼吸器を着けて症状に合わせて生きて行くのが良い、脳は正常に働いているので知恵を使って生きて行こうと思いました。

困ったことは、病気の進行と共にこれまでできていたことができなくなってしまったことです。特に困ったのは呼吸器設置の手術後の入院生活でした。突然体を動かさない、しかも声が出せず意思も伝えることができないので大変でした。

自宅に戻り、家族・ヘルパーさんなどに不自由なことを支援してもらう生活が始



相談事業

相談支援の取り組み



わの会相談支援9月末の相談者は、87名(児童13、身体20、精神34、知的21)うち今年度の新規登録者 7名

プラン内容	人数
訪問系サービス(居宅介護、重度訪問介護など)	29
短期入所(ショートステイ)	8
日中活動系サービス(療養介護、生活介護、就労移行支援、就労継続支援)	38
居住系サービス(グループホーム)	5
障害児通所支援(児童発達支援、放課後等デイサービス)	10

◆相談員が増えて

今年度より相談支援専門員の有資格者2名体制でのスタートとなった。昨年度から続くコロナ禍での相談業務が継続しているが、感染予防で人との関わりを極力控えているご家庭に対してはzoomでのモニタリングや電話での聞き取りを行う等、オンラインツールの活用も積極的に行った。上半期は緊急事態宣言が発令している期間が長く、作業所や短期入所の見学や利用調整を行うことができたが見学後の契約に関しては延期する施設が多く、思うように施設利用に結びつかなかったケースも多かった。

◆新型コロナウイルスの感染対策・対応について

B型作業所・グループホームを利用している50代男性は、9月上旬にコロナの陽性者となり、一時危篤状態となったが、その後容態が安定し10月上旬に無事退院することが

できた。コロナ発症時にグループホームの居室の中で嘔吐等繰り返したため、吐しゃ物がついてしまった私物や家具などの処分のため入院中の本人の同意書が必要になったが、グループホーム側はどう動いてよいかわからず、病院とグループホーム職員との連絡調整にわの会相談支援が入ることで同意書を取ることができた。

◆相談員の役割を果たすために

相談員が増え、受けることのできる相談数も増えている。市が特定相談支援事業所に求めるものも変化しつつある。本人要望をしっかりと聞き取り支援者との調整を着実に進めるといった基本的なスキルの向上のほか、新たな制度や福祉の動向を知るなど情報収集能力も求められている。研修への参加と学習の機会をこれかも確保してゆきたい。



## コロナ禍でのオンライン担当者会議

### ～ご家族の喜び

今年の4月に進学による新しい生活が始まったこと、身体の成長とともに支援内容の確認・支援体制の見直しのため担当者会議を開催する必要があったが、コロナの影響で支援者が集まり対面で開くことが難しくZOOMを利用しオンラインでの会議を行なった。

ZOOMのため、参加人数の制限が無く総勢11名の参加があり、日頃支援時に顔を合わせることができない支援者と現

状や今後の支援体制を確認できたことで、現在の受けている支援力の高さや必要性をご家族とともに再確認することができた。

ご家族も「こんなに沢山の皆さまが関わってくださっていることを改めて知ることができて嬉しい」と涙ぐむ場面もあった。コロナ禍で人と会うことに制限がある状況でも、今回のオンライン会議の開催によって、支援のあるあたたかい日常が垣間見ることのできる会となった。



## 安全対策委員会の取り組み

わの会の各事業は、それぞれ仕事の違いと特徴がありヒヤリハットの内容もバラつきがある。

しかし、すべての事業が対人支援という共通点があり、今回の集計では「確認ミス」が各事業とも多く見られた。そのことから、「確認ミス」についての対応や対策を出し合い検討しあった。特に、スタッフの技術、習熟度、意識、体調などは分析するが、組織的な改善を目指し個人に原因を帰結させない。「見逃してしまった」「聞き違えた」「見間違えた」などのヒューマンエラーが起きないように、だれでも気づける体制を整えたい。

## 確認ミス対策



### あいあい

- ①日頃からサービス提供責任者がヘルパーとのコミュニケーションを強化し、利用者様やヘルパーの状況を聞き取るなど関係性をよりよく保つ。
- ②週の始めなど決められた日に、1週間分の予定を再確認する。

### りんりん

利用者・家族からの欠席連絡などは、報告を受け取った時点で送迎表ファイルに記入し、文書で引継ぎを行う。

### 相談支援

- ①インターネットドライブを利用したケースの共有（出先での入力、確認ができるようする）
- ②ヒヤリハットがまだ少ないが、確認ミスは少なからず存在している。今後ともヒヤリハットへの取り組みは意識的にしていきたい

### 自立支援ネットワーク

グループLINEの活用や、行事ごとにチェックシートを作成し、準備の際に必要なものをひとつひとつチェックする。



## 壁面飾りの取り組みについて

壁面飾りづくり(表紙に写真掲載)には、たくさんの機能訓練が隠れています。手指の動きは日常生活上でもとても大切です。手指の動きが悪くなると摘まむ、握ることがしにくくなります。そうすると着替え(特にズボンの上げ下ろしや、ボタン)、文字を書く、食事など日常生活に不便が生まれます。

そのため、りんりんでは手指動作に重点を置いた機能訓練として壁面飾りづくりに取り組んでいます。また、共同作業なので出来る方が困っている方を助けたり、助言をしたりと助け合いが自然と生まれ、時には自発的に「ここはこうしたらどう？」とスタッフにアイデアを提供してくれることもあります。最終的には皆さんのアイデアが詰まった作品となります。完成した作品をみんなで自画自賛？して楽しんでいます。



## 家族の声



母と同居した当初母は何に対してもあまり関心がない様子でしたが、最近是一緒に家事をするなどできるようになっています。りんりんではいろいろな役割を作ってくさっているおかげだと思えます。

母と同居始めた当初は、「どうしたらいいのかわからない」ことばかりでしたが、送迎の際の母への声掛けや対応を見て「こうしたらいいんだ」とヒントもいただき、私にも余裕ができてきました。これからも同居を続けられそうです。

(Aさん 79歳 要介護3 女性)



## あいあいの目標と課題

あいあいでは、利用者ニーズを的確にとらえ、在宅での生活が安全・安心して営むことができるよう、チームケアの向上のために努めています。

例えば、担当サービス提供責任者(サ責)が利用者宅の問題等を1人で抱え、他のサ責が担当利用者外の詳細を把握できていない状況が続いていた。利用者さん宅に直接サービス提供を行いながら、本来のサービス提供責任者の実務も遂行している状況は過重労働を招きこの点の改善が課題となっている。そのために、ヘルパーからの要望をもとにしたシフト調整・人材育成に上半期は取り組んできた。数件の利用者宅ではヘルパーが定着。サ責が事務所に在勤する時間が増えてきた。複数でのサ責同士また比較的長時間働いているヘルパーと話しあえる機会を持つことができるようになり、1人が抱えてしまっていた状態が少しずつ改善方向に向かっている。